

普及活動情勢報告（平成28年月9分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

今年もカイランサイの栽培が始まりました！ ～JA 高知市東部露地部会共同播種～



セル苗播種をする生産者

7月22日から8月29日の間4回に分けて、JA 高知市東部露地野菜部、青壮年部合同によりカイランサイのセル苗播種作業が行われ20名が参加しました。普及所からの情報提供により、例年より1ヶ月早く播種を行うとともに、定植適期の延長ができ、耐病・耐虫性向上効果が見込めるスーパーセル苗に取り組みました。参加者からは、「去年はべと病の被害が多かったので、今年は防除に努め、もっと採りたい」など意欲的な意見が出るようになりました。

今後も普及所では、カイランサイの産地づくりに支援を行っていきます。

難防除の土壌病害を防げ！ ～ハウス軟弱野菜生産研修会～



堆肥を前に説明をする普及員

9月7日、JA 高知市管内の高知市鏡地域坂口のハウスにおいてハウスハウレンソウなどの軟弱野菜生産者を対象に、ハウスでの土壌病害対策についての研修を行い32名が出席しました。普及所からは、土壌消毒の方法や萎凋病の生態と対策、他産地の土壌分析データを基に土壌改善について説明を行いました。

生産者からは、土壌病菌の生態や発生のしやすさについての質問や、手間のかからないバーク堆肥にしては？といった提案が出されました。

今後も、普及所は現地巡回で土壌病害対策を進めていきます。

飼料米専用品種で所得の安定を ～飼料米説明会～



飼料米の必要性を説明

8月22日、JA 高知春野管内の水稻生産者を対象に、関係機関と供に、飼料米専用品種についての説明会を開催し、11名の生産者が出席しました。市やJAは、主食用米の価格が不安定であること、その価格の安定のためには飼料米の生産が必要であること、飼料米の栽培は低収量だと不利になることなどを説明しました。普及所からは、多収で、かつ高知県の早期稲栽培にマッチすると思われる「夢あおば」の特徴や栽培上の注意点を中心に説明しました。

今後は、主食用米からの飼料用米への転換を誘導するとともに、JAと協力しながら専用品種の多収技術確立と栽培指導を行っていきます。

集落営農について話し合いませんか？ ～中山間直払制度現地確認における啓発～



集落の一人一人に説明中

9月2、12、15、16日、中山間直払制度の現地確認に同行し4集落を訪問し、集落営農の取り組みの啓発を行いました。今回訪問した集落は、6月に開催した「第1回集落営農塾」のアンケートで、「集落営農の取り組みが必要」と答えた集落です。地域の現状と課題を聞き取り、集落の将来について話し合う座談会の開催を提案しました。集落リーダーからは「集会の時に説明して欲しい」「新しいことに取り組んでみたい」などの前向きな意見が聞かれました。

普及所では今後も新たな集落営農組織の育成を支援していきます。

秋の気配が... 梨の収穫の時期がやって来ました ～針木梨組合 新高梨食味会～



新高梨の食味中

高知市針木で新高梨の食味会及び出荷目慣らし会が9月21日に開催されました。生産者、市場関係、関係各機関、報道陣等約80名が参加しました。

午前中は、普及所が中心となり生産者から持ち込まれた新高ナシの果実分析を行い、今年産の特徴や問題点を説明しました。午後は、食味と目慣らし会を行い、その結果をもとに、出荷時期が決まりました。今年は、肥大型の小雨、高温で、やや小玉ではありますが、品質はまずまずの出来で、出荷始めは9月24日に決定しました。

普及所では、今後も針木梨生産組合の活動を支援していきます。